

GOOD DESIGN AWARD 2022

Case Studies

2022年度グッドデザイン賞 事例集



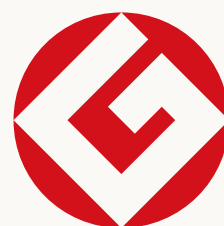
グッドデザイン賞は、1957年に旧通商産業省によって設立された「グッドデザイン商品選定制度」(通称Gマーク制度)を継承する、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動です。

単にものの美しさを競うのではなく、産業の発展とくらしの質を高めるデザインを、身の回りのさまざまな分野から見だし、広く伝えることを目的としています。

世界でも有数の規模と実績を誇るデザイン賞として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加しており、受賞のシンボルである「Gマーク」は、よいデザインを示すシンボルマークとして広く親しまれています。

グッドデザイン賞は、毎年4月の応募から、「一次審査」「二次審査」を経て、その年の「グッドデザイン賞」を決定します。

ここでは、2022年度に受賞した対象の中から、とくに優れたデザインであると評価されたものをご紹介します。





■ 一般向け取り組み

[受賞企業]

アトリエe.f.t.+合同会社オフィスキャンプ+
一般社団法人無限

2022年度グッドデザイン大賞受賞

子どもの育ちを地域の大人が支える駄菓子屋

地域で子ども達の成長を支える活動

まほうの다가しやチロル堂

[概要] 貧困や孤独といった環境にある子ども達を、地域みんなで支える魔法の駄菓子屋。入口におかれたガチャガチャには、通貨の価値を変える魔法が仕掛けられている。「支援対象を限定しない」と発想を転換することで、支援が必要な子ども達にアプローチする機会と、大人が日常生活の延長で寄附をする機会の増加を同時に実現した。

[評価ポイント] 子どもが分け隔てなく集える場としての「駄菓子屋」では、この場所だけで通用する貨幣「チロル札」を通じて、支援する側もされる側も気を遣うことなく授受することができる新しい取り組みが高く評価された。2021年10月に本活動はスタートし、初期投資の負担が少ない駄菓子屋という仕組みは、金沢に二号店をオープンさせるなど全国各地に展開する日もそう遠くないだろう。



■ 育児用品

[受賞企業]

ピジョン株式会社

災害時の乳児の命をつなぐために

授乳カップ

災害用授乳カップ

[概要] 災害時、赤ちゃんの命をつなぐためには、各家庭で備えやすい製品を準備する必要がある。しかしモニターの結果、使い慣れていない人工乳首では、違いに敏感な赤ちゃんは激しい嫌がりをみせることがわかった。そこで災害時にも推奨されるカップ授乳に注目。乳児期特有の飲み方に適した今までにない独自の形状の授乳カップを開発した。

[評価ポイント] 本製品は、災害を体験した方々の思いに寄り添って開発され、次の災害が起きたときには赤ちゃんを救うために作られた点が高く評価された。2018年に乳児用液体ミルクの製造が解禁されたが、優れた液体ミルクでも哺乳瓶やカップに移し替えて飲ませる必要がある。本製品は、赤ちゃんが安心してミルクを飲める環境を手軽に提供し、口当たりも良く、カバーのサイズも細かく計算されている。各自治体への備蓄が期待される。



■ 福祉・介護用品

[受賞企業]

風と地と木合同会社

身体機能の一部になれる杖

杖(T字杖、ロフストランドクラッチ)

ヴァイルヘルム・ハーツ

[概要] 本製品は、デンマークのフンデステッドという小さな田舎町の工房で、木工と金工2人の職人が、独自のデザインでハンドメイド、カスタムメイドで製作している。職人の愛情に溢れた人柄がにじみ出るような滋味あふれる製品となっている。ものを手入れしながら長く使う姿勢や、環境に配慮し自然に囲まれた生活から生み出されるプロダクトは、愛着を持ってものを使うことを思い出させてくれる。

[評価ポイント] 「一時的に体を支える杖」ではなく、「体の一部としてずっと使いたいと思える杖」を生み出したことが大きな功績と評価された。杖を使うときの劣等感を抱くことなく、造形的美しさや身体への馴染み方などによって、ユーザーの「外へ出たい」といった活力を導き出す作用があることが高く評価された。一人ひとりに合った杖を採寸し、対話を大切に作るプロセスも含め、今後さまざまな可能性を感じられる素晴らしいデザインといえる。



福祉・介護用品

[受賞企業]
株式会社Ashirase

足に装着するセンサー型のナビシステム

歩行ナビゲーションシステム

あしらせ

[概要]障がい者向けのナビゲーションシステム。靴に装着する振動インターフェースと、スマートフォンアプリによる音声入力や案内で構成される。ルート情報を足元から直感的に伝えることで、これまで苦労していたルート確認の作業から解放され、歩行者は安全確認に集中できる。それがユーザーの外出したい気持ちや達成感を後押しでき、ひいては自立や生活を楽しむ心に繋がる。

[評価ポイント]既存の類似システムでは、音声やスマホの振動で案内するものもあるが、本製品の最大の特徴である足に装着し直感的に伝える仕組みは、ユーザーが安心して出掛けることを可能にし、自立や生活を楽しむ心を育める点が高く評価された。デバイスのデザインもスポーティで、ソフト面ではUXにこだわった点も秀逸である。障害者福祉には未解決の課題が多いが、本製品がスタートした取組みが今後広く展開されることを期待したい。



福祉・介護用品

[受賞企業]
富士経編株式会社

衣服を通じたシニア世代のQOL向上のために

シニア向け・在宅介護向けルームウェア

keamu

[概要]高齢者や介護が必要なユーザー向けに、着る人・着せる人両方の視点から考えた、自宅からそのまま外出できるルームウェア。「本当に大人が着たいと思える」機能性とデザインを兼ね備え、構造を工夫することで介護する人、介護される人の負担を軽減するとともに、全てのシニア世代が毎日を気持ち良く過ごせる安心な社会の実現を目指す。

[評価ポイント]ケアウェアと一般の服を区別する必要がなくなる可能性がある優れた製品である。ホテル向けパジャマなどを製造する老舗メーカーが、介護現場のニーズを取り入れながら、デザイナーと協力し「高齢化社会に対応」「脱ぎ着しやすく、毎日洗濯しても劣化しにくい」といった、使用者の視点を考慮しながら、着用者が快適におしゃれを楽しめるデザインを実現した。ケアウェアの選択肢を拡げることができる点が大いに期待される。



玩具

[受賞企業]
株式会社千葉印刷

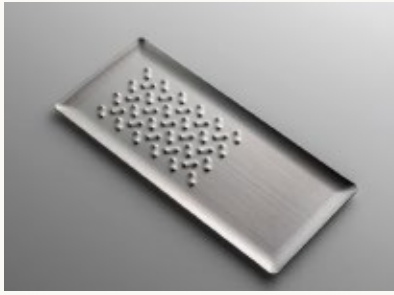
特殊印刷で多様な魚の表皮を再現

かるた

さかなかるた

[概要]特殊印刷技術を使用して、魚の表皮をリアルに再現した魚のカルタである。魚が光を反射する時のキラキラ感やウロコの凹凸感を再現しており、視覚と触覚の両方で楽しむことができ、加工前の魚を見る機会が少ない現代で、魚の美しさに触れることができる。また、素材にはYUPOという合成紙を使用しており、水に浮かべて遊ぶ事も可能である。

[評価ポイント]印刷会社の技術を最大限に活かした製品。見た目が楽しく、それぞれのテクスチャーも面白い。魚の表皮に着目することで、自然に触れることが少ない現代の子どもたちであっても、直感的に生物それぞれの独自性を知ることができる。視覚と触覚で楽しめる印刷面は美しく、裏面の魚の説明もシンプルで可読性のあるグラフィックに仕上げている。多くの人がさまざまな場面において楽しめるゲームとして高く評価された。



調理器具

[受賞企業]
株式会社トミタ

おろし金の不安と不満を解消する新発想

おろし金

トミタ式安全おろし金（刃を使わない安全なおろし金）

[概要] 今までのおろし金は、食材が小さくなる
と手を傷つけそうな不安感を抱かせるもので
あった。この永遠の「おろし金のバグ」を解決す
るため、誰でも安心安全に、食材を無駄にする
ことなく使える、全く新しい発想のおろし金の実
用化を目指した。その結果、刃の代わりにあじ
ろ模様突起を採用することにより、安全性と扱
いやすさ、衛生性をも兼ね備えたおろし金を実
現した。

[評価ポイント] 実際に確かめてみるまでは、「あまり
すれないのでは」というイメージがあったが、実際
にニンニクをおろした際のすり心地に驚きがあった。指
で触れると痛みを感じず、食材をスライドさせると、す
りおろすことができるという絶妙な凹凸を探し出すま
でに、多くの試行錯誤があったであろう。ステンレ
スの単素材であり、プロから一般のユーザーまでの使
用環境を網羅している。



食器

[受賞企業]
有限会社丸よ小泉商店

現代の暮らしに寄り添う常滑焼の茶器

急須

chanoma kyusu series

[概要] 新しい常滑の茶器シリーズである。白、
朱、黒泥の陶土を用いた、急須3型、湯冷し2
型、湯呑みからなる。本製品でお茶を淹れるこ
とで、使用者の暮らしにあらたな「間」を生み出
したいと考えた。常滑急須の伝統の白泥を採
用し、古典に習い急須の注ぎ口や持ち手を小
さめにするなど、使い易く手頃な価格ながら凛
とした静かな佇まいを心がけた。

[評価ポイント] 常滑の急須は、日本人における急須
のアイコンとも呼べる製品である。本製品は、元来
の常滑焼が持つ優しい雰囲気と優れた機能性を保
ちながら、現代の暮らしに最適化されている点が高く
評価された。歴史や産地、現場への理解とリスペク
トがあり、製作者の純粋さが感じられる。日本人の
「急須」へのイメージを保ったまま、根源的な良さを
損なうことなくアップデートに成功している点に賛辞
を送りたい。



生活家電

[受賞企業]
日立グローバルライフソリューションズ株式
会社

再生素材のマスプロダクション応用への挑戦

掃除機

日立コードレススティッククリーナー

[概要] 多くのユーザーが利用する家電製品で
ある家庭用スティッククリーナーにおいて、再
生プラスチックを積極的に活用し、高度循環
社会の実現をめざした。内部部品のみならず、
付属品や外観部品を含めた製品を構成する多
くの部品を再生プラスチックに置き換えながら、
外観品質を損なわない製品を目指し、クリー
ナーとしての性能を犠牲にすることなく、環境
に寄与するデザインを実現した。

[評価ポイント] 再生プラスチックを多用する前提で
商品が開発され、それが非常に高い次元でデザイン
として取り込まれている。生活家電の「美しさ」とは
何か、この製品はその「美しさ」に多様性があること
を気づかせてくれる。再生素材と共存しなければい
けなくなった現在にあって、これからの生活家電のあ
り方を提示している製品である。この製品を機にそ
の「美しさ」の概念が変わるかもしれないと思わせて
くれる可能性を秘めている。



生活家電

[受賞企業]

日立グローバルライフソリューションズ株式会社

家具のような存在感で冷蔵庫の活躍シーンを広げる

冷蔵庫

日立冷蔵庫「Chiii」R-MR7S/R-MR7SL

[概要]キッチン以外のさまざまな空間に設置されることを想定し、家具のような製品たたずまいをめざした小型冷蔵庫。縦置き・横置きの組み合わせ設置、インテリアと相性の良い10色のカラーバリエーション、選べる温度帯など、暮らしに調和する多様な選択肢を備え、自分好みに選んで組み合わせ、気兼ねなく使える新発想の冷蔵庫である。

[評価ポイント]冷蔵庫をモジュールとして捉え直し、ロープロファイルで家具のようなアピランスを与えている。これによって、ユーザー自身が冷蔵庫のさまざまな使い方や置き方を考え出せるようにしており、提案性の高い製品となっている。右開き・左開きのモデルがあり、2台を組み合わせるユースケースを想定しているが、冷蔵庫と冷凍庫という組み合わせができるようになるなど、今後の発展が期待される。



音響機器

[受賞企業]

ソニー株式会社+ソニーグループ株式会社

音楽と会話を同時に楽しむ、新しい音体験

ワイヤレスステレオヘッドセット

LinkBuds

[概要]WEB上の楽曲や立体音響技術による音楽体験といった「オンラインの音」と、会話や周囲音などの「リアルな音」とをつなぐヘッドホン。耳を塞がない新開発のリング型ドライバーにより、高音質な音楽を楽しみながら、人との自然な会話を可能とした。さらに、立体音響技術の可能性を引き出すべく、各種センサーを搭載し、新たな「音」の体験を創出している。

[評価ポイント]音楽を聴きながら周囲の音を取り込むことは、そもそも矛盾とも思えるが、耳を塞がないリング型ドライバーという発想に至り、実現したことは驚くべきことである。耳周辺のタップによる操作など新たな試みも搭載し、着けてみると開放感がある。これまでにない構造でありながら高音質を実現していることなど、問題解決とモノの本質とをトレードオフしないという強い姿勢が読み取れる。問題に真摯に取り組んだ秀逸な製品である。



情報機器

[受賞企業]

日本マイクロソフト株式会社

誰もがゲーミングを楽しめる環境のために

ゲーム機

Xbox Adaptive Controller, Xbox Series X | S

[概要]あらゆるユーザーがゲームを楽しむことのできるコントローラーと次世代ゲームコンソール機。様々な属性を持つ利用者を中心に置きながら、デザインは一貫性を保っており、いつでもどこでもだれとでもプレイできる環境を実現した。ボタンやジョイスティックなどあらゆる外部デバイスと接続してカスタマイズを可能にし高い拡張性を実現した。

[評価ポイント]「誰でもゲームを楽しめる環境を作る」という理想を実現する製品である。障がいを持つユーザーの障害レベルに合わせた要望に応えることができ、操作も数人で分担して一緒に楽しむことができるなど高い自由度がある。他社のスイッチも使用できるなどオープンな開発姿勢は同社の理念や姿勢を明確に表している。製品や理念、姿勢、実現力が高く評価された。

ユーザーの利用状況に応じたコストで使えるプリンター



印刷枚数を「チャージする」
あたらしいプリンター。

情報機器

[受賞企業]
ブラザー工業株式会社

インクジェット複合機

DCP-C421W

[概要]印刷枚数をモバイルアプリから「チャージ」して利用する家庭向けA4インクジェット複合機。購入後は印刷枚数を購入してプリンターにチャージするという印刷枚数に応じた支払のため、ヘッドクリーニング等の印刷以外で消費するインクコストが削減される。ユーザーの利用状況に応じた最適なコストのみで使用できる全く新しい仕組みを提供する。

[評価ポイント]家庭用インクジェットプリンターにとってのランニングコストはインク代が大半を占めるが、本機は印刷そのものに支払う従量課金印刷方法を採用しており、非常にわかりやすく直感的である。一連の流れであるモバイルアプリ連携で購入からチャージする仕組み、申請によりインクが直接自宅に送られてくる利便性など、わかりやすく淀みがない。成熟市場でもユーザー利便性を問いつける姿勢を高く評価した。

ものづくりの体系を変える「未来の部品工場」



生産・製造用機器

[受賞企業]
セイコーエプソン株式会社

小型射出成形機

AE-M3、AE-M10、AE-M3V

[概要]本製品は、環境負荷に配慮したコンパクトな部品工場の実現により、産業構造の革新を目指す新しい成形プラットフォームである。独自のディスクドライブシステムにより、小型化と高効率の射出成形を実現。設置性と操作性を向上し、モジュール化した拡張性のあるデザインによって、近消費地生産で地球に優しいものづくりを実現を目指した。

[評価ポイント]これからの世の中では必要なものを必要な量だけつくるのが大きなテーマとなるが、少量多品種生産はロスが大きいという構造的なジレンマがある。私たちはプラスチック製品に囲まれて生活しているが、それらの多くは大型の樹脂成形機で作られており、材料のロスも多い。本製品はこれまで大きな工場で行っていたことを、究極的に小型化し効率化することで、未来の工場の在り方を示唆する提案として高く評価された。

動脈瘤治療におけるコイル塞栓術の限界打破



医療用機器

[受賞企業]
テルモ株式会社

脳動脈瘤留置血流変更デバイス

Woven EndoBridgeデバイス

[概要]本製品は、たった一つのデバイスでワイドネック分岐部脳動脈瘤を安全で効果的に治療するためのデバイスである。自在に形状が変わるマイクロブレイドメッシュや、動脈瘤への血液流入の抑制を目指した埋込部の高い金属被覆率、適切に留置するために十分な視認性を確保するニッケルチタン合金を採用したことなどを特徴としている。

[評価ポイント]脳動脈瘤を治療するためのまったく新しいデバイスである。編み構造は柔軟性を特徴とする構造体だが、その構造的な特徴を医療に活かすことで、従来の術式が持っていた問題点を根本的に解決している。結果として術中の放射線被ばく量を下げ、且つ治療コスト削減を実現しており、重層的に課題を解決している点はまさにイノベーションと呼ぶに相応しい。日本の伝統工芸である「組紐」をヒントにしているという点も非常に印象的である。



福祉・介護用品

[受賞企業]
株式会社aba

において排泄を検知するケアのシステム

排泄ケアシステム

Helppad

[概要] センシング技術とAI技術を使い、便や尿の「におい」で排泄を検知する排泄ケアシステムである。専用の吸引シートをベッドに敷くだけで使用できるため、要介護者がおむつや衣服を着用したまま使用できる。おむつを開けずに排泄したことが分かるため、介護職員の負担が減り、要介護者もより良い介護が受けられることを目指して開発した。

[評価ポイント] 介護の問題は社会の高齢化と少子化により一段と深刻になっているが、介護現場における負担を軽減することは、今後の担い手を確保する面からも重要と考えられる。本製品は、設置の容易さや検知方法の面で既存製品に見られない特徴を持っており、排泄介護における負担の軽減を新たなアプローチで実現している点が高く評価できる。検知精度が高まることで、適切な対応によって被介護者の満足度が向上することも期待できる。



パーソナルモビリティ

[受賞企業]
本田技研工業株式会社

移動と行動の新体験をもたらすモビリティ

ハンズフリーパーソナルモビリティ

UNI-ONE

[概要] 老若男女、下肢障がいの有無にも対応する幅広いユーザーをサポートできる新領域モビリティである。単なる移動手段ではなく、着座する人の意図を読み取り、手放しても「意のまま」に全方位へ移動することができる。ユーザーの活躍する機会をより拡げることが可能となり、仕事やレジャーに対し新たな選択肢を提供する歩行感覚を実現した。

[評価ポイント] 同社が開発したバランス制御技術を採用した新しい移動手段は、運転操作に両手を使わなくても前に進むことができ、免許も練習も不要、人類の移動の概念を大きく更新する可能性を秘めている。障がい者にとっては自由を提供し、健常者にとっては疲れなく移動できる。デザインも威圧感なく、乗る人も周りの人もストレスなく楽しめる。この製品の普及は社会を変える可能性をも持ち、インパクトの高い挑戦的なデザインである。



移動・輸送サービス

[受賞企業]
日産自動車株式会社+浪江町役場

自動車メーカーが取り組む地域内移動交通支援

システム支援型モビリティサービス

なみえスマートモビリティ

[概要] 本サービスでは、福島県浪江町および浜通り地域の復興と活性化に貢献するため、住民だけでなく訪問者も、また若者からお年寄りの誰もが利用でき、ワクワクする公共移動サービスとして構築・デザインした。また人口密度の低い地域でも事業を持続可能なものとするため、貨物輸送の取り込みや移動需要拡大につながる地域活性化促進を行った。

[評価ポイント] 過疎地における交通手段の確保、とりわけ東日本大震災の被災地では公共輸送機関の維持が大変難しい課題である。本サービスは、既存の乗用車を活用し、きめ細かいインターフェイスや完成度の高いシステムを組み合わせている点が秀逸である。人口希薄地帯において高品質な公共交通を導入するまでのハードルが低い点を高く評価した。自動車メーカーらしいユーザー目線の技術開発が公共交通にも展開されている点も今後期待が持てる。



■ 戸建住宅

[受賞企業]
株式会社リビタ

中古住宅の新たな流通を促すリノベーション

戸建てリノベーション

HOWS Renovation 「国立の家」

[概要] 築30年の戸建て住宅をスケルトン・インフィルにて改修したプロジェクトである。予め現行法への適合と耐震・断熱改修の計画を立て、スケルトン状態で販売をし、暮らし方に合わせてインフィル計画を住まい手とともに考えた。建物の基本性能と遵法性を確保した上で顧客の自由設計ニーズを実現する、新たな中古住宅流通へのチャレンジである。

[評価ポイント] 中古住宅が流通しにくい理由には、技術的性能の劣化のみならず、住宅の個性化という問題も潜んでいる。住宅のカスタム化が進んだ結果、他者とは共有できない価値観という負の部分も顕在化した。それに対する気づきから生まれたのが本提案である。木造住宅は基本的に同じ構法で建てられ、個性化は表層的で後置的であるという特質を理解した試みでもある。日本の住宅の懸案に対する解決策を提示する新しい取り組みである。



■ 戸建住宅

[受賞企業]
網野禎昭+株式会社平成建設+株式会社宮田構造設計事務所

大径丸太を有効に生かす・素材から発想した家

住宅

バウマイスターの家

[概要] 山と街がともに豊かになる木造建築のあり方を追求したい。そのためには建築の作り方が山の状況を反映しなくてはならない。現在の山に豊富にあるにも関わらず使われることの少ない大径丸太を、シンプルなハンドクラフトだけで無駄なく活かした、素材から発想する建築。生産者も住まい手も共に喜ぶ木のカタマリ空間づくりに取り組んだ。

[評価ポイント] ほとんどの木造住宅の木材は、製材済みの流通材を、プレカットという工場加工をした上で建設現場に納入しているが、その過程で材料の歩留まりは45%にとどまり、林業従事者の収益も減ってしまうのだという。この問題に切り込む本住宅は、解体後も再生可能な木材として活用できるような設計を施している。プロジェクトのヴィジョンや実現するためのアイデア、実際の空間、その全てに高い評価が寄せられた。



■ 小規模集合住宅

[受賞企業]
小田急バス株式会社+株式会社ブルースタジオ

バス終着折り返し点を地域交流のハブとする試み

賃貸集合住宅

hocco

[概要] 東京郊外住宅地では高齢化がすすむ一方、団地再編、ミニ開発などによって一定の共働き子育て住民の流入も見られる。高齢者は孤立を深め、多忙な共働き世代は地域コミュニティに参加する機会が少ない。本計画地ではそんな住宅地の「路線バス終着折り返し所」を地域交流のハブとして、店舗兼用住宅を含む「なりわい居住型賃貸住宅」として再編した。

[評価ポイント] 住宅地の中央にあるバスターミナルを地域交流拠点として開発した新しい取り組みである。これまで都市近郊部の開発は駅前中心の画一的な開発が主であったが、駅から離れた立地のバスターミナルに店舗併用の賃貸住宅を建てることで、住む人の「なりわい」が地域の人々の新しい交流を生む魅力的な場となっている。全国にあるバスターミナルの今後の開発の見本となり得る好事例である。



■ 中～大規模共同住宅

[受賞企業]
株式会社シルバーウッド

管理ではなく入居者の自発力を尊重

サービス付き高齢者向け住宅

銀木犀

[概要] 介護を必要とする高齢者が生活をする場、サービス付き高齢者向け住宅である。日常生活に支障をきたす状態にあっても、入居者はそれぞれの「役割や仕事」を持って暮らし、できることは奪わない。併設の「駄菓子屋」には多くの子どもたちが訪れる。本人の希望を尊重し、在宅医療と連携して自然な「看取り」までを行なう場を実現した。

[評価ポイント] 本作品は、普通の日常の暮らしを提供することを基本として、入居者一人ひとりの人間としての尊厳を尊重し、管理者側論理でつくられた既成の法律やルールとの違和感を正面から問い直す事例である。本事例において様々な事情を抱えるユーザーに対して、豊かな選択肢を提供できていることが、福祉政策の新たな未来を切り開ききっかけになるのではないか。既成の慣習を「正しく打破しよう」という事業者の心意気に敬意を表したい。



■ 公共事業

[受賞企業]
国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

歴史・文化に配慮した治水と景観の一体的整備

河川整備

景観や自然環境に配慮した塔の島河川整備事業

[概要] 宇治川塔の島地区は琵琶湖から淀川に繋がる治水上重要な区間であるが河積が小さく、洪水時の流下能力の向上が課題となっていた。一方、当地区は世界遺産の平等院をはじめとした歴史的文化的遺産が点在し、文化庁の重要文化的景観にも指定され、地元市民や観光客にも親しまれているため、歴史的・文化的景観と調和する河川整備を行った。

[評価ポイント] 河道掘削、護岸整備、合流堰整備といった土木スケールの整備ながら、歴史的文化的遺産が点在する地域に相応しい品格を持ち、遠景からディテールまで美しい現れとなっている。中州が形成される河川の自然の作用を生かしたことで、植生が繁茂しはじめるなど環境再生効果も生じている。人の生活や文化とともにある河川の災害が激化しているなかで、治水と景観の一体的整備を行ったモデルとして高く評価できる。



■ 公共空間

[受賞企業]
南海不動産株式会社+南海ビルサービス株式会社+有限会社華まる園

「ふるさとの公園」を目指すPark-PFIによる提案

公園プロジェクト

市民と賑わいを広げるPark-PFI制度を活用した公園「大蓮公園 SUEプロジェクト」

[概要] 泉北ニュータウン内にある本公園はPark-PFI制度を利用し、遊休施設に新たな機能を備えている。園内にはアウトドアアクティビティを導入し、公園を市民活動の舞台にすることで「これまで」と「これから」を繋げる多様なプログラムによって、新たな利用者と地域住民が共鳴しあい、暮らしによりそう次世代の「ふるさとの公園」を提案している。

[評価ポイント] 本プロジェクトの特筆すべき点は、Park-PFIの事業公募があった時点で、地域で活動したい市民に丁寧な聞き取りをするなど、コミュニティ形成をしながら提案をしていったことである。公共予算縮小の中でPark-PFIが急増しているが、公共性と商業とのバランスを欠くケースもあり、地域の身近な公共空間としての公園のあり方が問われている。本件は、そうした現状に対抗するモデルとして高く評価したい取り組みである。



裁判官国民審査の権利を身近にしたキャンペーン

投票啓発キャンペーン

最高裁判所 裁判官の国民審査 特集サイト

■ 一般向け取り組み

[受賞企業]
日本放送協会

[概要]2021年10月実施の最高裁判所裁判官の国民審査において、投票方法や審査対象の裁判官たちの経歴、個別の判断等を解説する過去に無い総合的なサイトを公開。放送とネットで連動したキャンペーンを展開し、形骸化が指摘されていた国民審査への関心を高め、投票判断に役立つ情報を提供した。

[評価ポイント]これまで最高裁判所裁判官国民審査を自分ごととして考えるのは困難であった。その大きな要因として情報不足があり、マスメディアがこの審査を大きく取り上げる機会も少ない。このウェブサイトは、こうした状況に一石を投じた。的確な情報提示によって、国民審査が国民にとって重要な権利であり、社会をより良くする機会であることを改めて発信したのである。マスメディアが自らの役割を適切に果たした素晴らしいデザインである。



障害者手帳をめぐる負担とリスクを減らし便益を高めるアプリ

デジタル障害者手帳

ミライロID

■ スマホ向けアプリ

[受賞企業]
株式会社ミライロ

[概要]障害者手帳所有者を対象としたスマートフォン用アプリケーション。マイナポータルAPIとも民間活用の第一号として連携し、公証性を確立している。3,500を超える事業者にて、ミライロIDの提示によって障害者割引などを受けることができる。障害者手帳を所有するなかで生じる紛失や心理的負担を軽減し、多岐にわたるフォーマットの統一により事業者のスムーズな確認を可能とした。

[評価ポイント]障害者手帳をスマートフォン上でデジタル化することで、これまで障害当事者にとっても、サービス提供事業者にとっても、負担となっていた手帳の確認の手間を省くことを可能としている。個人情報を開示することなくさまざまなサービスを受けられる点は、デジタルならではの利点である。こうした取り組みが障害者にポジティブな行動変容を促し、今後も社会性や公共性をもった持続的な事業として展開されていくことが期待される。



夜間・休日救急の新たな選択肢としてのプラットフォーム

医療系Webサービス

夜間・休日に患者と医師をつなぐ「ファストドクター」

■ ウェブサービス

[受賞企業]
ファストドクター株式会社

[概要]夜間・休日における急病やケガは、救急車や夜間・休日対応の病院にかけ込むなど受診手段が限られているのが現状である。本サービスでは、症状の緊急度判定、近隣の病院案内、必要時の自宅での診療手配(往診・オンライン診療)等を行い、適切な受診行動を提示することによって、夜間・休日救急の新たな選択肢となることを目指している。

[評価ポイント]時間外救急のプラットフォームとして、症状に応じて救急病院案内や往診、オンライン診療など適切な医療を選択できるように支援することで、救急医療の新しい選択肢となるサービスに先鞭をつけたこと、コロナ禍においてそうした救急医療の社会的な期待に応えていることが高く評価された。医療機関との連携による医師や看護師の確保、診察評価フィードバックを品質改善に活用する等による丁寧なサービスデザインがなされている。



一般向け取り組み

[受賞企業]
特定非営利活動法人BEPPU PROJECT

九州発・アートとクリエイティブの地域振興への実装

地域再生のための活動

BEPPU PROJECT

[概要]アートやクリエイティブを活用した地域課題の解決に向けた事業を計画し実践するプロジェクト。その過程や効果を検証・立証し課題を見出すことで、計画の見直しや新たな事業計画に繋げていく。このサイクルに様々な視点を持つ人が参画することで、多様な可能性が生まれる場を創出し、イノベーションを誘発する。地域を再生・アップデートする活動のデザインである。

[評価ポイント]全国で地域課題解決を目的とした芸術祭が開催されているが、本プロジェクトは民設・民営というのが大きなポイントである。2009年にスタートした芸術祭だけでなく、市民文化祭の開催、アーティストインレジデンスの運営、旅行ガイドの発行など活動が幅広く、いまやその活動は行政の政策に影響を与えるほどになっている。形から入った公民連携ではなく、時間をかけてコンセンサスを築き上げた点は高い評価に値する。



地域の取り組み・活動

[受賞企業]
Fu Wan Chocolate(台湾)

「カカオのある文化」への評価を高める取り組み

ビジネスモデル

The sustainable chocolate business model

[概要]本ビジネスモデルでは、環境に優しい農業契約から始まり、持続可能なココア、地元の食材、現代のチョコレート食文化、価値認識、文化認識という5つの目標が続く。児童労働の撲滅や、環境への配慮、フェアトレードなども実現し、産業全体としてココアやチョコレートの価値を高めて広めることを目的としている。最終的に文化に対する消費者の評価を高めることも目指すものである。

[評価ポイント]台湾からの応募作品は総じてレベルが高かったが、そのなかでも審査委員の注目を集めたのがこの作品だった。ピンロウの健康被害とピンロウ農家の低所得を解決するために、23軒の農家にカカオを育ててもらっている。カカオの発酵技術開発にも積極的で、台湾のカカオが高品質であることを世界へ発信している点も素晴らしい。今後、参加する農家が増え、産業としてさらに広がることを期待する。



一般用サービス

[受賞企業]
株式会社コワードロブ+博報堂ケトル

「誰もが着たい服を着られる」既製服の手直しサービス

身体の不自由な人への服のお直しサービス

キヤスク

[概要]障害・病気などの理由により、自分の好みよりも着やすさ優先で服を選ばざるを得ない人に向けて、好みの既製服を身体の不自由に合わせてお直しできるオンラインサービスが「キヤスク」である。開発にあたっては、「自分の子のために独学で習得した服のお直し技術を、同様に困っている人に提供したい」という肢体不自由児の母親たちを全国から組織することにより、実現が可能となった。

[評価ポイント]誰もが本当は好きな服を着たい。でも障害や病気などでお気に入りの一着を、そして普段着を選ぶのが難しい人たちがいる。本サービスはそんな人たちのために、洋服のお直しをする。お直しをするのは子どもや家族が近い状況にある人たちで、こうした当事者を組織化することでサポート合っている。力になりたい、力になってほしいという関係が見事に結びついた取り組みに評価が集まった。



島根県発で育てる地域の総合診療医

総合診療医育成プロジェクト

しまね総合診療センター NEURAL GP network

■ 教育・推進・支援手法

[受賞企業]

島根大学医学部附属病院総合診療医センター

[概要]日本全体の高齢化の進行を背景に、今後一層需要が高まる総合診療医を、島根県発で育てていく「総合診療医養成プロジェクト」(NEURAL GP network)を立ち上げた。中山間地域や離島などで活動する総合診療医同士をつなげるバーチャルオフィスを構築し、日常業務から研修医の受け入れまで連絡・相談できる体制を構築した。

[評価ポイント]全国的に地域医療の従事者が少ないという背景の中、医学部の中にできた「総合診療医養成プロジェクト」という新しい枠を活用し、地域医療従事者を増やそうとする仕組みと関係性のデザインが素晴らしい。地域医療の人材やネットワークが、そこに住む人の安心・安全を心理的にサポートしてくれることに繋がり、結果としてその地域に住みたい人を増やす公共的なインフラ価値を作っている点も高く評価された。



地方と都市を行き来する多様な学び方

多地域就学プログラム

デュアルスクール

■ 一般向け取り組み

[受賞企業]

株式会社あわせ+徳島県庁

[概要]デュアルスクールとは、地方と都市、2つの学校の行き来を容易にし、双方で教育を受けることができる「新しい学校のかたち」である。大人の働き方改革が進む中、子どもたちの「学び方」も多様にし、居住地とは異なる生活を通じて、地方と都市のそれぞれの良さや違いを知り、多様な価値観を持った子どもの育成を目指している。

[評価ポイント]コロナ禍におけるテレワーク浸透により多拠点居住の道が拓けたものの、残る課題は子供の教育である。本取組は、2017年より徳島県と教育委員会とともに実証実験を進めてきたことがきっかけとなり、住民票や授業日数など現実的課題への対応を可能とした。徳島発のデュアルスクールが全国展開を視野に入れた一般社団法人発足となり、家族全員での多拠点居住促進につながった点は高い評価となっている。

2023年度グッドデザイン賞応募受付

応募
受付

4月4日(火)ー5月24日(水)13:00

応募説明動画
公開中

「グッドデザイン賞とは?」「応募手続き」
などが簡単にわかる動画を公開中です。

審査の視点セミナー(全3回・オンライン)

グッドデザイン賞ではどのようなポイントが評価されているのか、2023年度の応募に期待することなどを、審査委員からお話しいたします。

- 4月4日(火) 審査正副委員長によるキックオフトーク
- 4月11日(火) プロダクト分野
- 4月21日(金) 建築(住宅)分野

◎この他にも関連イベントを随時開催予定



詳細・応募

www.g-mark.org

<主催・お問い合わせ>公益財団法人日本デザイン振興会 グッドデザイン賞事務局

〒107-6205 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5階

Mail. info@help.g-mark.org